

ODIP 4.3 修正パッチ (P1040311006391) リリースノート

2025/10/6

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. Snowflake のキーペア認証対応.....	4
2. 固定長テキストファイルへの数値型出力で異常終了する問題を修正.....	5
B. パッチ適用による影響	5
C. パッチの適用方法.....	5
1. ライブラリファイルの更新.....	6
2. パッチ適用後の確認.....	6

A. 変更内容

1. Snowflake のキーペア認証対応

キーペア認証を使用した Snowflake への接続に対応しました。キーペア認証の対応にともない、データソース情報の入力方法と `snowflake.properties` の一部に変更があります。

(1) データソース情報

① ホスト名

従来どおりの Snowflake のアカウント識別子に加えて、次のオプションを追加できるようになりました。アカウント識別子と各オプションは;(セミコロン)で区切ります。オプションはいずれも省略可能ですが、省略した場合は `config/snowflake.properties` の対応する個所を直接編集する必要があります。

(a) `private_key_file`

秘密鍵ファイルのパスを指定します。`snowflake.properties` の文字列“<private_key_file>”を置き換えます。

(b) `warehouse`

ウェアハウス名です。`snowflake.properties` の文字列“<warehouse>”を置き換えます。

(c) `stage`

内部または外部ステージ名を指定します。`snowflake.properties` の文字列“<loader.stage.name>”を置き換えます。

次はホスト名の入力例です。

```
cslbqfs-dl32653;private_key_file=/home/odip/prv.p8;warehouse=sfwh;stage=sfstage
```

※Windows の場合、ファイルパスの区切りは“¥”ではなく“/”を指定します。

例：private_key_file=C:/odip/prv.p8;

② パスワード

暗号化した秘密鍵ファイルのパスフレーズを指定します。暗号化していない秘密鍵の場合、入力はありません。

(2) `snowflake.properties` の変更

次を変更しました。

- jdbc.url に private_key_file=<private_key_file>&private_key_file_pwd=<passwd> を追加
- loader.command に--private-key-path <private_key_file>を追加
- <warehousename>の変数名を<warehouse>に変更

(3) トランスフォーマリポジトリテーブルのレイアウト変更

本改定によるデータソース情報の桁数拡張に伴い、トランスフォーマリポジトリテーブルのレイアウトを変更しました。

2. 固定長テキストファイルへの数値型出力で異常終了する問題を修正

固定長テキストファイルの出力において、データソース情報の「NULL を表す文字」が未設定で、出力データの数値型カラムの値が NULL の場合、ジョブが異常終了する問題を修正しました。

B. パッチ適用による影響

トランスフォーマリポジトリテーブルのレイアウト変更により、ジョブ実行前にトランスフォーマリポジトリを再作成する必要があります。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ☐ ODIP アドミニストレータ v4.3
- ☐ ODIP オペレーションマネージャ v4.3
- ☐ ODIP リポジトリマネージャ v4.3
- ☐ ODIP プロセスマネージャ v4.3
- ☐ ODIP リポジトリサーバ v4.3
- ☐ ODIP トランスフォーマ v4.3

1. ライブラリファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP_P1040311006391 フォルダに格納されているライブラリファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040311006391 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040311006391		ファイルのコピー先
lib		
	ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
	OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
	RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
	RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
	TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、選択されたすべてのビルド ID が 1040311006391 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMS サーバ情報”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040311006391 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040311006391 であることを確認してください。

以 上